

安全データシート (SDS)

1 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名

ITEA スギ花粉アレルギー (Cry j 1) 測定用構築型 ELISA
キット (ビオチン標識)

ITEA ダニアレルギー (Der f 1) 測定用構築型 ELISA キ
ット (ビオチン標識)

ITEA ダニアレルギー (Der p 1) 測定用構築型 ELISA キ
ット (ビオチン標識)

ITEA ダニアレルギー (Der f 2) 測定用構築型 ELISA キ
ット (ビオチン標識)

製品コード

10301、10302、10303、10304

会社情報

会社名

ITEA 株式会社 東京環境アレルギー研究所

担当部署

品質管理部

住所

〒113-0001 東京都文京区白山 1-33-18 白山 NT ビル

電話番号

03-3526-2031

Fax 番号

03-3526-2032

電子メールアドレス

reag-info@itea.jp

緊急連絡電話番号

03-3526-2031

推奨用途及び使用上の制限

研究用試薬

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

分類できない

健康に対する有害性

分類できない

環境に対する有害性

分類できない

GHS ラベル要素

絵表示

なし

注意喚起語

なし

危険有害性情報

該当しない

注意書き

該当しない

他の危険有害性

情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

情報なし

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

固相化用モノクローナル抗体

ビオチン標識モノクローナル抗体

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
グリセロール (グリセリン)	56-81-5	2-242	50 ≤, < 60

危険有害成分

毒物及び劇物取締法、安衛法「表示、通知すべき有害物」、化管法に該当する危険有害成分なし。

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

直ちに医師の診断を受けること。

大量の水で洗うこと。異常が生じた場合には、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で15～20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。

予想される急性症状

本製品中の標準液（凍結乾燥）の粉じんに接触したり吸入した場合、眼、皮膚や気道に刺激性を生じたりアレルギー反応を生じる可能性がある。

遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5 火災時の措置

適切な消火剤

周辺火災に応じて水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

本品に対する消火剤の制限なし。

特有の危険有害性

情報なし

特有の消火方法

消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響を与える可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散した物を掃き集めるか、真空掃除機で吸引する等できるだけ飛散発じんしないようにして、空容器等に回収する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 標準液（凍結乾燥）は粉じんを発生させないようにする。
接触回避	直射日光、高温多湿を避ける。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策	2～8℃を維持できるバイオメディカルクーラーで保管する。
混触禁止物質	情報なし
保管条件	直射日光を避け、2～8℃で保管する。
容器包装材料	ガラス、高密度ポリエチレン

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

標準液（凍結乾燥）

ACGIH TLV-TWA (2018)	3 mg/m ³ （その他の不溶性のレスピラブル粒子） 10 mg/m ³ （その他の不溶性のインハラブル粒子）
ACGIH TLV-STEL (2018)	設定されていない
日本産業衛生学会（2017）	2 mg/m ³ （第3種粉塵（その他の無機および有機粉塵）、吸入性粉塵） 8 mg/m ³ （第3種粉塵（その他の無機および有機粉塵）、総粉塵）

本項目は感作性そのものに対する許容濃度ではない。

固相化用モノクローナル抗体

ビオチン標識モノクローナル抗体

OSHA-PEL	TWA 15 mg/m ³ (Total dust) TWA 5 mg/m ³ (Respirable fraction)
----------	--

設備対策

標準液（凍結乾燥）において粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器または局所換気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具	標準液（凍結乾燥）の粉じんが発生する場合、必要に応じて保護マスクを着用する。
手の保護具	ゴム手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて安全帽、保護衣、保護エプロン、安全靴等を着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観（物理化学的状態、形状、色など）	標準液（凍結乾燥） 固相化用モノクローナル抗体 ビオチン標識モノクローナル抗体	白色粉末 無色液体 無色液体
臭い	情報なし	
臭いの閾値	情報なし	
pH	標準液（凍結乾燥）	7.2～7.6（溶解後）
融点・凝固点	情報なし	
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし	
引火点	情報なし	
蒸発速度	情報なし	
燃焼性	情報なし	
燃焼範囲の上限・下限	情報なし	
蒸気圧	情報なし	
蒸気密度	情報なし	

比重	情報なし
溶解度	水に溶解するが、濁りを生じることがある。
<i>n</i> -オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	情報なし

10 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	通常の手扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	直射日光、高温多湿
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11 有害性情報

製品の有害性情報

情報なし

成分の有害性情報

情報なし

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

成分の環境影響情報

情報なし

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
再燃焼装置および脱塵装置等を備えた化学用焼却炉であれば、可燃性溶剤、重油等の燃料と共に燃焼処理できる。施設がない等の理由で処理できない場合は、都道府県の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した上、リサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

国連番号	該当なし
品名	該当なし
国連分類	該当なし
副次危険性	該当なし
容器等級	該当なし

海上輸送（IMO の規定に従う）

国連番号	該当なし
品名	該当なし
国連分類	該当なし
副次危険性	該当なし
容器等級	該当なし
海洋汚染物質	該当なし
IBC コード	該当なし

航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）

国連番号	該当なし
品名	該当なし
国連分類	該当なし
副次危険性	該当なし
容器等級	該当なし

国内規制

陸上規制情報	該当なし
海上規制情報	該当なし
海洋汚染物質	該当なし
航空規制情報	該当なし

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

該当なし

特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15 適用法令

該当しない

16 その他の情報

参考文献

ITEA 株式会社 東京環境アレルギー研究所提供資料
NITE GHS 分類結果一覧（2018）
日本産業衛生学会（2017）許容濃度等の勧告
ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2018) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等があった場合には適宜改訂を行います。また、注意事項等は通常の見扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

作成日 2024年3月21日

ver2024_1.0